

組 体 操

【高学年 2 - 4】

学校行事と関連付けた取組み

- (1) **主題名** ゆるすということ [2 - 4]
- (2) **ねらい** 謙虚な心を持ち，広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心を育てる。
- (3) **資料名** 「組体操」
- (4) **授業の展開例**

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 昨年 of 運動会「組体操」のビデオを見る。	ビデオを見た感想を発表しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命演技していた。 ・かなり練習しないとできないだろう。 	資料に関する関心を高めるようにする。
展 開	2 資料を読んで主人公の気持ちについて話し合う。	わたるくんがあやまった時，つよしくんはどんな気持ちで顔をそむけたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・最後の運動会なのに，くやしい。 ・許すことはできない。 ・何のために今まで練習してきたんだ。 ・あんなに楽しみにしてはりきっていたのにどうしてくれるんだ。 	補助発問により，つらい気持ちでいるわたるくんの気持ちにも気付かせる。 はりきっていただけに，わたるくんを許せないでいるつよしの気持ちにも共感させる。
	3 お母さんの言った言葉について考える。	お母さんの「一番つらいのはわたるくん」という言葉を聞いたつよしくんは，どんなことを考えたでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・でも，一番つらいのはぼくだ。 ・明日は，わたるくんにとってもつらい運動会になるだろうな。 ・このままでは，ぼくもよい思い出が残らない。 ・みんなも心配してよい演技ができないかもしれないな。 	お母さんの言葉で，自分とちがう立場の人の気持ちを思いやることの大切さに気付かせる。
	4 つよしくん of 行った行動について予想する。	つよしはわたるくん to 電話でどんな話をしたのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・明日は，ぼくの分までがんばってね。 ・まだ，完全に許せたわけではないけど組体操をがんばってほしい。 	そんなにすぐに許せるものではないという考えも大切にする。
終 末	5 「心のノート」P48，49 の詩を読み考える。	「やわらかいところ」ってどんな心なのでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手をゆるす心。 ・相手の立場に立って考える気持ち。 	詩を読み味わいながら，この問いについて考え，相手によりそいわかり合おうという気持ちを高める。

組 体 操

ぼくの名前はつよし。今年も、ぼくが一番大好きな運動会の季節がやってきた。小学校最後となる今年は、練習にも熱が入っていた。それに六年生の運動会には楽しみがある。それは、組体操だ。

去年、六年生の心を一つにした演技を見たときから、(来年は、いよいよぼくたちの番だ。すばらしい演技をするぞ。)と心にちかっていたのだ。

それから一年間、体育の時間を使って少しずつ練習を積み重ねてきた。今年に入ってから、集団でする大技も練習するようになった。特にピラミッドは、一人一人に役割と責任がある。(友だちがちゃんとしてくれないからできない。)と、他人のせいになっているうちは、絶対に成功しない。みんなの心が一つになったとき初めて成功する。

ぼくたちのグループも、初めは失敗の連続だった。やっとできるようになったのは、おたがいに声をかけ合い、放課後も練習を重ねた結果だった。

今日は運動会の前日。最後の練習だ。笛の合図でだんだんとピラミッドができあがっていく。二段目、三段目。とうとうぼくの番だ。手と足をいつも場所に置き、(さあ決めてやる。)と思ったしゅん間、ぼくの体は安定を失い、床に転げ落ちていた。かたに痛みが走る。

ぼくはそのまま病院に運ばれた。骨折だった。

ぼくは、目の前が真っ暗になったよつで何も考えられなかった。

病院から学校へ帰ると、わたるくんが泣きそうな顔をしてやってきた。

最初にわたるくんがくずれて、全体がバランスをくずしたのだ。

「つよしくん。ぼく・・・ごめん。」

つらそうにわたるくんはあやまった。だけど、ぼくは許すことができず、ぶいと顔をそむけてしまった。

学校までお母さんが迎えに来てくれた。お母さんはわたるくんに、

「そんなに自分をせめず、つよしの分までがんばってね。あしたの運動会、おばちゃん楽しみにしているからね。」

と声をかけた。

家に帰ると、ぼくは、

「ぼくががんばりたかったのに、わたるくんにあんなこと言っなんて。」
と、お母さんにくっつかかった。

しかし、お母さんは、

「一番つらい思いをしているのは、つよしじゃなくてわたるくんだと思うよ。母さんだって、つよしがあんなにはりきっていたのを知っているから、運動会に出られないのはくやししいし、残念でたまらない。でも、つよしが他の人にけがさせていた方だったらもつとつらい。つよしがわたるくんを許

せるのなら、体育祭に出るよりも、もっといい勉強をしたと思うよ。」と静かに言った。

ぼくは、「今一番つらいのはわたるくん」と言ったお母さんの言葉が強く心に残った。

その夜、ぼくは、わたる君に電話しようとして受話器をとった。

活用に生かすための実践報告

「組体操」

1 主題の設定

- ・6年生にとって学校行事はとても大切である。それは、もう小学校では経験できないものだからである。自分の宝物にしようと、真剣に取り組んでいればいるほど、それができなくなったとき、子どもたちは、自分の腹立たしい気持ちをおさえることがむずかしい。
- ・本資料は、運動会等の練習を始めたときに扱いたい。そして相手の気持ちを思いやることの難しさと共に大切さを考えたい。さらに相手を許さないという行為は、自分一人のことだけではなく、自分のまわりの集団全体にも影響を与えるのだということにも気付かせ、互いに許し合うことの大切さを考えてもらいたい。

2 指導過程の工夫

- ・実際の実践では、資料を前半と後半に分けた。前半を読んだあと「自分がつよしだったらどうするか。」と発問した。その上で理由もいっしょに自分の判断を発表させた。そうすることによって子どもたちは経験の中で、友だちが許せなかったときのことや、反対に許せたときの心地よさにもふれるとともに、お互いの考えを聞きあうことによって、自分には思いもよらない友だちの考え方にふれることができる。そのことによって、自分の経験の中では学習することができなかった新しい価値にふれることができると考える。

3 発問の工夫

- ・中心発問をお母さんの言葉からつよしが何を考えたのかについてとした。それは、今までつよしが気付かなかった観点から人を許すことの大切さに気づき、それがその後のわたるくんの電話の内容を考える大きな手がかりとなると考えたからである。

4 児童の反応

- ・許します。つらそうにあやまっているのに許さないとわたるくんに悪い。
- ・許します。過ぎたことはしょうがないし、許さなくてすぐ治ったり、運動会に出られるわけ

ではないから。

・許します。事故だったんだし、許さずずっとけんかしたままだったらもっと嫌な思い出になるから。それにわたるくんだって悪気はなかったんだから。

・許さない。わたるくんが気をぬいたせいで、どの競技にも出られないからです。

・人をけがさせたときは、ものすごくつらいけど今までがんばってきたのに、それを壊されたのはどうしても許せない。

・最後の運動会だったし、楽しみにしていた組体操にも出られなくてとてもつらい。許してあげたいけど、たぶん許せません。

・迷っている。そのわけは、ずっと怒っているとわたるくんが嫌な気持ちで毎日を送ったら自分でも困るけど、小学校生活最後の運動会にでられないのはわたるくんのせいだと思う気持ちはなくならない。

・一生懸命取り組んでいる子ほど許せないと判断した。この後授業では他の場面で、相手を許せたり許せなかったりした時の気持ちを正直に語ることができた。授業後、子どもの感想の中に次のようなものがあった。

(授業後の感想)

・許さなかったら、運動会をみんながんばって成功させるのは難しいと思う。許してくれたらつよしくんの分もがんばろうと思うけど、許してくれなかったらまたそのことを思って失敗してしまうかもしれない。わたるの心もつよしの心もくもったままでの運動会になったら、だれにとってもあまりよい思い出ができない。すごくむずかしいことだけれど許せばつよしにとってもよい思い出になるはずだ。

5 実践者からの一言

・実際に、運動会での組体操を練習している時期に実践した。授業は、自分の練習風景と重ね合わせながら主人公の気持ちを考え、涙ながらに発言する児童がいて、身近な資料になっていると感じた。

・この実践後の組体操の練習もさらに真剣に取り組み、練習中の雰囲気もとてもよいものになった。

(道上小学校 高垣和子)